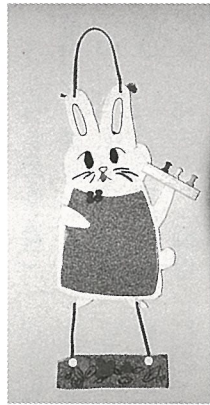




4年 森 葵衣さん

※初めて電のこ
を使って作り
ました。むす
かしかったけ
どかわいくで
きました。



『うさぎの伝言板』



あつまれ みんなの 力作

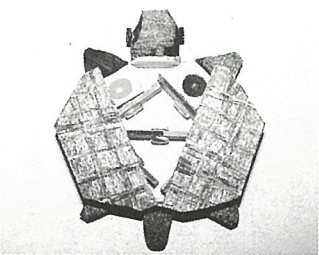


『防火ポスター』



1年 江波戸裕二くん

※消防車が大き
くかけたところ
や、火や煙
の色がうまく
ぬれたところ
がよかった。



『ふしぎなカメラ』



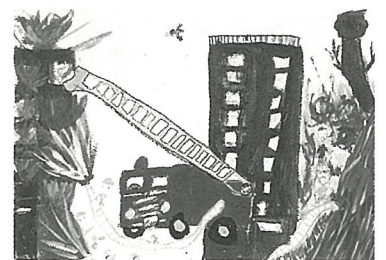
5年 川島 達也くん

※カメラのこ
ころが開くよう
にして、小さな
物が入るよう
工夫しました。



2年 加藤 直人くん

※しょうぼうじ
どう車の形を
かくのと、火
をぬるのが大
へんでした。

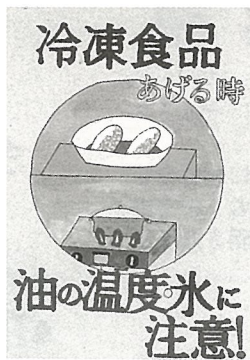


『しょうぼうじどう車』

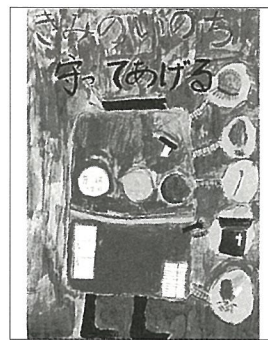


6年 江波戸翔子さん

※難しかったの
は、色の組み
合わせで良か
ったのはむら
なくぬれたこ
とです。



『防火ポスター』



『きみの命 守ってあげる』



3年 土屋 悟くん

※こまかい所は
消火器をよく
見て書きまし
た。自分では
よくできた
と思います。

ひかり俳壇



越川せつ子 (篠本)
頼寄する孫と添寝や遠蛙
母親の留守がちな家庭の日常的な
光景。幼児には祖母の胸は揺籃に
も似て心が休まる。

椎名 静子 (二又)
夜蛙の声や耕地の闇をつく
静寂な春の闇を包む蛙の声。高
句であるが「の声や」は不要です。
夜蛙やで切りたい。

鈴木とし子 (宝米)
遠蛙話のつきぬ友とあて
女三人寄れば何とやらと言うが、
その渦中にある作者の心情が季語
に適確に表白された。

川島 重一 (尾垂)
夜蛙の街駆け抜ける救急車
山崎 てい (二又)
耳聴き児の捉へたる初蛙
伊藤 雅子 (尾垂)
うぶ声のたより届きし紅の梅
鳴川 篤 (尾垂)
蛙さんお目覚なれば二千年

伊藤 幸枝 (尾垂)
四肢生えて嬉々と子蛙大地這う

短評
評者吟 宅地化へ進む身めぐり蛙の夜